

# HELLO!!!



外国人指導助手  
イングリッド・  
レザー

Ingrid Lezar

## 地元を食べる

きっと多くの人々が、今の世の中の強迫観念的なエコロジーに時々疑問を感じていると思います。例えば、「“オーガニック”って正確には何のこと」「それがわたしにどう関係があるの」のように。

でも、今回は少し違ったことをお話ししたいと思います。このことを考え始めたのは、友達が作ったブログ『Regional buffet (地域の食堂)』を見てからです。このブログは、彼女とその友達が自分の町の周りにある地元の農業について取り上げています。彼女たちは、住んでいる地域の半径25キロ以内で作られた食べ物をどんどん買うようにしています。「もっと地元産の物を食べる方が良い」というのです。食べ物は新鮮で、長距離輸送をする必要がないのでトラックの燃料や冷蔵などの心配もありません。だから人にも環境にも有益です。食べ物に支払った費用も地元経済に戻るのです、地元の農家や農産業に関係して働いている人々を支援することにもなります。うなずける話ですね。

しかしわたしたちは、スーパーマーケットで簡単にフィリピン産のバナナやメキシコ産のアボカド、オーストラリア産のステーキ肉を買える生活をしています。その食べ物がどこから来たかはさておき、日本はその他の問題にも直面しています。

『Japan Times』によると、1960年には79%あった日本の食糧自給率(カロリーベース)は、

2006年には39%でした。もちろん、農産業や人口増加など、さまざまな要因がありますが、食生活の変化はどうでしょう。1960年には1人当たり126.2キロだった米の消費量が、人口が増加しているにも関わらず、2006年には67.4キロにまで減少しました。日本人の食生活の変化は、明らかに日本の食糧自給率に影響を与えているのではないのでしょうか。

内子町では、「内子フレッシュパークからり」や「半豊市806」のような場所が、地元産の物とわたしたちをつなげてくれていると思います。からりでは、品物を見るだけでなく、誰がどのように作ったのかという情報もコンピューターで見ることができます。しかし一方でわたしがちょっと驚いたのは、内子町で働いている人が新聞でからりの記事を見て「へえ、からりって有名なの」と言ったり、もう何年も内子町に住んでいる人が「からりに一度も行ったことがない」と言ったりすることです。何ですって!?! 手ごろな価格で新鮮な地元の農産物があるし、おいしいものを食べられる場所もあ

るし、素晴らしいアイスクリーム……もうやめておきましょう!

わたしたちは相変わらずスーパーマーケットに依存していますが、地元産の物に目を向けているお店や商店街、町並みのお店で買い物をしたことがないなら、ぜひお勧めします。食料品を買わなくても、からりでは健康的なランチや、つり橋や川の素敵な雰囲気も楽しむことができますよ。また大洲市に住んでいる人や働いている人、買い物に行く人は、新しくオープンしたお店「愛たい菜」もありますので行ってみてください。内子町も大洲市も、近くに地元の食べ物がたくさんあって、わたしたちって幸せじゃない!

※Regional buffet (地域の食堂)  
☞ <http://regionalbuffet.blogspot.com>  
※Japan Times  
☞ <http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/nn20080226i1.html>

町並みで販売されていた、しいたけ



友達とからりで